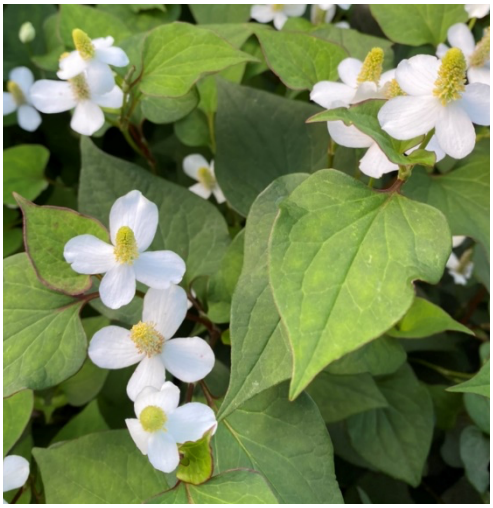
－ドクダミ－

東アジア原産のドクダミ科の落葉多年草



ドクダミ（東京理科大学 植物園）

2021/05/31 撮影

ジュウヤク（生薬標本室）

基原植物学名：*Houttuynia cordata* Thunberg

科名：ドクダミ科

属名：ドクダミ属

形態：茎は淡褐色を呈し、縦溝と隆起する節がある。水に浸してしわを伸ばすと、葉は広卵状心臓形で、淡緑褐色を呈し、全緑で先端は鋭くとがる。葉柄は長く、基部に膜質のたく葉が付いている。花穂は淡黄褐色で無花被の多数の小形の花を付けている。4 枚の白い花弁に見えるものは、苞（つぼみを包んでいた葉）のこと。

薬用部位：花期の地上部

生薬和名：ジュウヤク（十薬、重薬）

漢方処方：五物解毒散

主要成分：精油（デカノイルアセトアルデヒド）、フラボノイド（クエルシトリン、イソクエルシトリン）

主な薬効：強い抗菌作用（デカノイルアセトアルデヒド）、利尿作用、強心作用、血管収縮作用、抗菌作用（クエルシトリン）

・ゲンノショウコ、センブリと並んで「日本三大民間薬」の 1 つに挙げられる。

・デカノイルアセトアルデヒドはドクダミの特異な臭気の元となる物質であり、ペニシリンよりも強力な抗菌作用がある。そのため生のドクダミの葉には殺菌作用があるが、乾燥させるとデカノイルアセトアルデヒドは酸化されて抗菌作用を失う。クエルシトリンは時間が経過して乾燥しても揮発しない。

・ドクダミの名は「毒や傷みに効く」から「毒痛み」になったという説や「毒矯み（毒をためる=なおす、矯正する）」から来たという説がある。

・十薬は、十の薬効があるということから、重薬は、ドクダミを陰干しておけば重宝することからきている。

参考文献

・生薬単　改訂第 2 版　著：原島広至　NTS 出版　p144、145

・日本薬局方

・漢方 210 処方 生薬解説 ―その基礎から運用まで―　編：昭和漢方生薬ハーブ研究会　株式会社じほう出版　p53、54

2021/06/07　4YM　K.K